

まんさく

第304号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
題字 元理事長 太田 祖 電



湯本温泉神社祭『鬼剣舞』(9月7日) 馳せ参じます! 【関連記事: 2頁】

304号『まんさく』もくじ

☆2頁★

- *「共生の場」へようこそ♪
- *「鬼剣舞」「御神輿」来苑

☆5頁★

- *元気です! 家族会♪
- *帰ってきた家族会親睦旅行♪

☆3頁★

- *想…災害を捉える
- *職員募集!

☆6頁★

- *「光寿苑の日々」(4コマ漫画)
- *「自然法爾」(お寺さんのお話)
- *「おわりに」

☆4頁★

- *地域密着型事業紹介
- *寄附・寄贈・訪問等紹介 等

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間のご紹介となります】



高橋 徳一さん
*西和賀町



高橋美喜子さん
*西和賀町



佐々木弘子さん
*西和賀町

9月7日

9月8日

湯本温泉神社祭『鬼剣舞』『御神輿』来苑

初日は子どもたちの『鬼剣舞』、2日目は御神輿を鑑賞したお年寄りたち。初々しい姿やお祭りの雰田気に、お年寄りたちも元気を引き出してもらった様子でした。ありがとうございます♪



想...

災害を捉える 宮城県から発信します⑫

『3.11...そのあと』 白木澤 琴 氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さん12回目のご執筆です。今回は3.11、その後の激動の歩みの中、最愛のご尊父様とのかけがえのない時間が綴られています。

▽
3.11...そのあと
△

東日本大震災から13年。この月日はとても早く感じた。本堂の復興、結婚、父親の死、出産。目まぐるしく生活は変化していった。その中でも、私にとって忘れられない出来事か、父親の死だった。つらく、悲しい出来事だったが、その時に向き合った日々は、今でも私たちが家族の支えとなり、「生きる力」になっていっているように思っている。

本堂の復興に安堵したのも束の間、父の癌が判明した。平成25年の年末頃のことだった。

鼻の奥に悪性黒色腫という皮膚がんが見つかり、5年生存率は10%以下。重粒子線治療をはじめ、様々な治療を試したものの、状況は悪化。

その間、平成27年には私自身、結婚するということがあった。夫は、これまでの仕事を辞めて、寺に入ることを決断。夫や義理の両親には、感謝してもらいにくせな

いと怒る。

父親は最後、大病院でお世話になっていたが、平成29年の秋、ついに通院することも難しくなり、自宅での緩和ケアがスタートした。その時に来てくださった先生方が、最初に話してくれた言葉、それは、

▽ご住職の命が輝けるようにお手伝いさせていただきますと思えます。

▽家族も第二の患者さんです。無理しないで下さいね。私たち、チームですからね。

と。本当に有難い言葉だった。以後、連日のように先生や看護師さん、ソーシャルワーカーの方、薬剤師さん等がお越し下さり、治療だけでなく、父や私たち家族との対話を重ねて下さった。時に「歎異抄」や「夜と霧」についてなど、医師と僧侶の宗教談議が幾度も繰り返された。

次第に父は、自分で寝返りも打

てなくなり、オムツを使用して、元気な時には80キロ以上もあった体重も、60キロを切るまでに痩せていった。痛みと闘う毎日だったが、父は最後に一つだけ生きる目標を持っていった。

▽玉蓮寺の報恩講（親鸞聖人ご命日の法要）で、皆様に「ご挨拶させていただきます」と。

というものの。明日の命も分からない状況の中だったが、父にとって輝いて生きていける、命全うしていけるとはどういうことかを家族で考え、父が報恩講に出られるよう、準備を進めていった。

▽次号に続く▽

職員募集

介護職員、調理職員を初め、ケアマネ、相談員、送迎業務や営繕管理、除雪などもできる方も探しております。

一度、ぜひ、お問い合わせ下さい。

【代表 0197-84-2526】

今月の登録者の方々
16名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

朝晩は過ごしやすくなりました「ひなたぼっこの日常」



【上2枚】『夕涼み会』での楽しげな様子

【下2枚】『上野々地区御神輿』の活気に包まれて

光寿会へのご支援

おかげさまでした

寄贈

- ★ 高橋 重一 様 [川 尻]
- ★ 匿名 希望 様 [盛岡市]
- ☆ 高橋 美智子 様 [上野々]
- ☆ 伊藤 堅一 様 [上野々]
- ☆ 石川 アチ 様 [上野々]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 照井 和江 様 [北上市]
- ☆ 佐々木 正 様 [北上市]
- ☆ 石川 顕 様 [盛岡市]
- ☆ 下平 真理子 様 [紫波町]
- ☆ 高橋 智也 様 [埼玉県]

寄附

- ★ 匿名 希望 様 [西和賀町]

面会

- [8月1日～31日]
- 【対面面会】
- ★ 延べ54名 (対象入居者21名)

訪問

- 8月19日「入居者の相談事等の拝聴」
- ★ 光寿苑のお年寄りを護る会 … 1名

★光寿苑 ☆ひなたぼっこ

元気です！家族会♪



家族会副会長
佐々木忠雄氏

119回目も家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿です(^^)♪
今回は「敵前逃亡」という興味をそそるタイトルです！

△ 敵前逃亡 △

御多分に漏れず、子どもの世話も母が一手に担っていましたが、父と言えど、家での仕事や出稼ぎで生計を立てるのに精一杯で、子どもを見る余裕などないといった雰囲気。しかし、隣家に行って花札やらの娯楽の時間はあって、私の目の前をお金が行き来する記憶が残っています。

さて、小学校入学前の時は色々することがありますが、父は一向に当てにならず、かと言って母も仕事で忙しく、母親学級にも参加できず悔しい思いをしたそうです。

そんな中、唯一父がしてくれたのが、予防接種に私を連れて行ってくれたことです。

何の予防接種かまでは分かりませんが、会場は他の子どもたちの号泣する声や響いていたようで。そんな中で私はニコニコ笑っていて怖そうにする雰囲気は微塵もなく、父は「他の子と違ってどどどってないよ」と、少し誇らしく思っていたそうです。しかし、その時事件が起こったのです。

父が一瞬私から目を離れた隙に、私の姿も見えなくなりました。慌てて建物の中を探しても中々見つからず、「えらい恥をかいた！もう俺は連れて行かない！」と帰って来て言ったらしく、その後には予防接種等行かなくなったのだそうです。

母は大笑いし、「母親の苦労が少しは分かりましたか？」と少し溜飲が下がったように言っていました。

他にも私は保育所の運動会のかけっこで最中に途中で放棄し家に帰ったこともあり、敵前逃亡の常習犯だったかも(笑)

令和6年度家族会親睦旅行 秋田 にかほ温泉の旅

参加募集

期日： 令和6年11月16日(金)

出発： 光寿苑 朝日 出発

参加費： 5,000円(お一人様)

(旅日程)



【参加留意事項】

- ※-1 行路ルート外で、朝(光寿苑まで)夕(光寿苑から自宅まで)の送迎が必要とする方は参加申し込み後に送迎車両の調整確認を行います。
- ※-2 インフルエンザ、コロナなどの感染症予防のため車内等でのマスク着用をお願いします。
- ※-3 当日及び数日前からの発熱、体調不良など症状が見られる場合はご遠慮をお願いします。
- ※-4 交通事情等により、ルート変更も考えられます。

【参加申し込み】 < 最小催行人数20人 ~ 最大40人 >

切： 10月10日(木)まで、お電話でお申し込み下さい。

※送迎バス途中乗車・下車等は 後日、連絡調整致します。

特別養護老人ホーム光寿苑

申込： ☎ 0197 (84) 2526 担当 福川 又は 事務局 まで

家族会親睦(日帰り)旅行のご案内

初秋の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。当家族会の運営にしましては、日頃より深いご理解と、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、コロナ禍で久しく延期しておりました家族会親睦旅行を上記期日により開催することいたしました。

つきましては、何かとご多分のところとは存じますが日頃の疲れを癒し、会員相互の交流を深めたい所存でございます。多卒ご参加下さいますようご案内申し上げます。

令和6年9月2日
家族会 会長 佐々木 一

湖郷を秋にくつろぎの湯に遊ぶ

温泉入浴の方は入浴タオルの準備(持参)をお願いします。



はまなす SPA

秋田県にかほ市金湯字中谷地20-1 ☎ 0194-38-2246

帰ってきた家族会親睦旅行♪

左記の通り、実施されます。家族会の皆様、ぜひ♪

光寿会の日々 304号



イラスト：1000

ざわり方が少し違うと、痛みを感じやすいKさん。この日も少々不安にさせてしまった。そんな場面に表われたHさんは、普段から職員に合掌して感謝される方で、この日も本人はいつもの合掌だったが、思いのほか相乗効果が表れた(喜)

新しいということとは、 何時までも古びないこと

《安野光雅》

第103回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

ふだん、「古典」と言われるものと接する暮らしをしながら、八百年前の文書から、「現代にも古びない新しさ」を感じて、驚くことがある。

一々の花の中よりは

三十六百千億の

仏身も光も等しくて

相好金山のごとくなり

〔親鸞の和讃より〕

今、目の前に、金色に輝きながら競い咲く花々を見た詩人は、語りかける。

ほら、見てごらん。お花が美しく咲いているよ。よく見れば、一輪一輪のお花から、光に包まれたふみほとけが、姿を現して下さっているようだ。

詩人は今、一輪から「三十六百千億」と無限に展開する花たちのふいのちのふの広がりを見ながら、花たちの歌うふいのちのの讃歌を聞いています。

この七五調に整えられた「花の讃歌」が作られたのは、親鸞七十六歳、一二四八年のことだという。

「相好」とは、お花の持つ表情のこと。

おわりに

私は幼い頃から色覚異常(色盲)があった。保健室に呼ばれて色覚テストを受ける事に、ストレスを感じていたものだった。今でも困るまでではないが、天気次第で信笏の青色や青には見えなかったり、焼肉の焼け具合が分からなかったりする。小学生の頃、空と山の景色を描いた所、曇り空を紫色に塗った私。当時の先生からは、「お前、大丈夫か?」と言われたのも恥ずかしく思っただけだ。けれど、私にはその様な色に見えているのが事実である。一般的には見えしていない。それは「恥ずかしい」という事ではなく、見え方として表すべきと思う。

※四コマの独特の色づかい、ご承知下さい。